

## 米国の没落

3ヶ月ほど前に、とあるセミナーの終わりに参加者から質問をされた。

「もしトランプ候補が大統領になった場合、市場はどのように反応すると思われますか？」

その場で必死に思案を巡らし、何とか次のように答えた。

「最初は全部売りでしょう。所謂、リスクオフです。んー、金利は上がります。株は、……わからないな。ただドルは買いでしょう。ドルと金しか買えるものが思いつきません」

他の解説者とは異なり、幾度となく今回の大統領選挙のアノマリーを紹介し、トランプ候補が勝つ可能性があることをテレビ・ラジオで紹介してきた。しかしあまりに実現可能性が低いため、買った後、最初のリアクションが起きた後の展開を予想し、解説することまでは出来なかった。とは言え、せいぜい先ほどの質問に答えた時と同じく、最初は売り、それから金利が上がり、金利が上がるならドルも上がる、株はと言えば、それまで売られていたものが買われ、買われていたものが売られる、その程度の答えしか見つからない。本当の問題は、そこから先の展開であるはずだ。

人によってはトランプ大統領の誕生を、かつてのレーガン大統領が選ばれた時と重ねて説明するが、それは違う。レーガンの時は、旧ソ連と言う戦う相手がいた。さらにはインフレと言う目に見えない手強い相手がいた。だからこそレーガンは“強いアメリカ”を標榜し、小さな政府と軍備拡張と言う相矛盾する政策を同時に掲げ、右傾化路線を邁進した。この時、実行された政策が、減税と極端な金利引き締めであったが、当初の市場の反応は今の人々の記憶と異なる。期待が先行し、株が買われ、長期金利が上昇し、ドルが買われた、と思われがちであるが、現実には全て1ヶ月程度の夢に終わった。米国は長いトンネルの時代に入り、翌年、81年7月には景気後退期に入る。

今回の場合、トランプが戦う相手は米国自身である。米国の中にあるエスタブリッシュメントが作った理想主義と戦い、グローバリズムの夢を捨て、米国に利益を還元することにある。これは米国の中で悲劇的な衝突を巻き起こす。トランプ一族は今回の勝利で大いなる繁栄を手にするであろうが、米国民は夢や希望を失い、一回り小さい国家へと縮小していく。

エマニュエル・トッド（フランスの人口統計学者、家族人類学者）の予想が、また現実のものとなりつつある。彼は、旧ソ連の崩壊を予想した。金融危機を予想した。英国のEU離脱を予想した。そして米国の、孤立と没落を、2002年の時点で予想していた。最終的に彼は米国の経済規模がどんどん矮小化し、普通の民主主義国家に落ちぶれていくと予想している。

彼の予想が正しければ、もう米国は、我々が追いかけるべきトップの国ではない。日本は独自の道を進んでいくべきである。ただ問題は、その米国が、まだ巨万の富と、世界最大規模の軍事を保有していることだ。答えを見出すには、長い時間がかかる。